

「新聞製作職場のいま」を学ぶ 拡大世話人会に30人が参加

新聞OB会は3月25日(火)、拡大世話人会を東京・東日本橋の中央区立産業会館で開きました。厳しさを増す一方の新聞業界の現状を学習、昨年9月の総会以降半年間の活動を総括するとともに、今後は各種サークル活動を通じ、会員拡大に努めていくことを申し合わせました。

世話人会には役員や世話人、一般会員ら30人が出席、四宮晴彦代表委員(日刊工)と小林豊司事務局長次長(東京中日)の2人が司会を務めました。

第1部の記念講演では、新聞労連書記で個人加盟の新聞通信合同ユニオン副書記長も務める加藤健さんが「新聞製作職場のいま」と題し講演(写真左)。そのなかで、われわれの現役時代から大きく様変わりした新聞製作の実態が浮き彫りにされた。



新聞労連の組織人員はピーク時の4万人から現在では2万2千人と半分近くに激減。各社とも印刷部門の合理化を図るため、別会社化を推進。全国紙、ブロック紙ともすでに完了し、共同通信加盟の地方紙でも、直営の印刷工場を有するのは岩手日報など11紙を数えるのみ。この別会社は、本社との間に賃金体系などの大幅な格差を生み、ユニオンシヨツクの壁などから労組の組織化を阻

み、全大手紙の組合青年部がなくなるなど組合運動が事実上消滅しつつある。

大手紙と地方紙の相互委託印刷、凸版印刷との資本提携が進む一方、京都新聞で編集、営業、印刷の3分社化、読売整理職場の地方版業務委託など印刷以外でも別会社化、業務委託が行われている。これら合理化の実態に対し、本社の出向社員らに組合活動しにくい現状があり、労連の対策として別会社、委託会社の社員の組織化が急務だという。

加藤さんは「最近、新聞社内の非正規労働者からの労働相談が増えている。一人でも加入できるユニオンへの加入促進を図ると並行し、各職場で組合を組織し、またオルグできる活動家の養成も進めたい」と結びました。

質疑に入り、戸塚章介さん(毎日)が「年金改悪で60歳定年の人には65歳までの5年間どうするか。合同ユニオンに入っているのか」と質問。加藤さんは「再雇用で社に残る人以外、労連に相談がないので、組織化に結びつけられない。組合籍を離れている中間管理職の組合が、これから必要だろう」と

答えました。

白濱雄三さん(朝日)は「最近の学生は新聞を志望しなくなったというが、図書館で新聞をみている学生もおり、そうでもないのでは?」とただし、加藤さんは「新聞好きの学生は多く、労連の就職セミナーにも多いときで東北から九州まで300人も集まったことがある」と回答。

田原恒男さん(読売)がこのセミナーについて詳細を尋ねたのに対し、概要次のような説明がありました。

労連主催で新聞志望の学生を対象に年1回、11月に開催。各大学の就職課にチラシを送り、斡旋を依頼。受講料無料のうえ、マスコミの本音が聞けると好評で、作文ゼミは各社の現役デスクが講師になり添削。これまで7年間で70人が各社に入社しており、「今後、社の垣根を超えた横の連携が必要で、いずれ『同窓会』を開きたい」と加藤さん。

狩野博美さん(日経)は「個人加盟のユニオンに力を入れていっているのは分かるが、労組の形態が変わってきたので、今後は職能別横断組合をめざすべきではないか」と提起しました。

第2部に移り、木村武晴事務局長(読売)が昨年9月から今日までの活動状況を報告しました。「健康で明るく楽しく」をモットーにしたOB会の各サークルの活動ぶりを紹介し、特定秘密保護法反

対や脱原発の運動にも言及しました。

自由討論に移り、世話人会に初参加の布施茂芳さん(共同)は「最近の安倍政権の動きは常識では考えられない。これでは言論がなめられているとしか思えない。この風潮で疑問を持たない人が増えるのが心配。新聞にはもっと頑張ってもらいたい」。斎藤哲成さん(日経)は「居住地域で福島の影響者3人を呼んで話を聞いたが、われわれはもっと現地と連携して運動していく必要がある」。

都築義夫さん(京都)は「分社化が目立っているが、労働条件は想像以上に厳しく、もっと深く掘り下げて考えねばならない」。池内満さん(読売)は「分社化して組合ができなかったというが、元職場の現役にきくと夜勤が月半分と過酷な実態がある」とし、合同文集『オレンジの旗』をどうするかと質問。これに対し四宮出版委員長が「総会後の役員会で引き続き発行の方針を決め、来秋までに発行の予定」と答えました。

5月に定年予定の鋤柄誠さん(日経)は「OB会で将棋クラブを立ち上げたい。OB会員でない高段者の先輩がいるので、ぜひとも入会してもらいたい活動していきたい」と意欲的な発言を行い、注目されました。最後に芳尾孝治事務局次長(内外)が「多くの活発な発言があり、有意義だった。OB会として果たすべき役割は少なくない。今後ともそのことを踏まえ、実のある会にしていきたい」とまとめを行いました。

閉会后、会場から歩いて人形町の居酒屋へ。第3部の懇親会は赤川博敏代表委員(毎日)の司会で始まりました。勤務先の産業会館を会場に紹介してきた明星直道さん(毎日)の音頭で乾杯(写真上)し、懇親を重ねました。

意見交換も行い、半田功有さん(報知)は「マスコミ批判が多いが、日本を救うのは新聞との気概で頑張らねばならない」、北川孝雄さん(朝日)は「最近沖繩へ行ってきたが、米の植民地として厳しい状況に置かれ、福島原発同様、沖繩ももっと考えていかねば」、山川智さん(北海道)は「ベトナムへ行つて、安倍政権の米ベトナムが間違いとわかった。ベトナム戦争は米の利益のためにやったのであり、米はけつしてアジアを重視していない。われわれはこの点をしっかりと見極めねばならない」、新聞OB「九条の会」事務局長の戸塚さんは「九条の会は今年原発にしぼり、9月初め福島ツアーを実施したい」と述べました。名誉会員の高山尚武さん(産経)は体調不良でしばらく活動から遠ざかっていますが、この日は元気な顔を見せてくれました。中締めは四宮さんの音頭で一本締めを行い、午後7時すぎ、盛会のうちにお開きとなりました。